関東支部 2023 年度調査事業報告

2023 年度　新物流コスト実態調査
（調査期間 2022 年 4 月～2023 年 3 月）

関東支部 8 社の数値をもとに集計。昨年度同様、加工食品と酒類にカテゴリーを分けて数値分析を行った。

1.加工食品

関東支部 8 社のうち 6 社の数値をもとに集計。倉庫数は 41 拠点と前年と同数であった。

ケース単価は 2,654 円となり、前年（2,579 円）より 75 円上昇する結果となった。

1 ケース当たりの物流コストは 126 円となり、前年に比べて 5.0 円増で、売上率でも 4.76%と昨年の 4.69%から 0.07%の増加となった。

項目別では、データ処理費が（▲0.2%）と微減、設備費（1.0%）、流通加工費（1.9%）、配送費（2.6%）と若干の増加となった。

最低賃金上昇、燃料費上昇の影響でデータ処理費以外のコストは上昇傾向となっている。

2.酒類

関東支部 8 社のうち 6 社の数値をもとに集計。倉庫数は 26 拠点と前年より 2 拠点増加した。

ケース単価は 4,028 円となり、前年に比べて 352 円増加した。1 ケース当たりの物流コストは 191 円となり、前年に比べて 4.0 円上昇したが、売上率は 4.75%と前年の 5.09%から 0.34%の減少結果となった。

項目別では、データ処理費（▲0.43%）、流通加工費（▲3.74%）は減少したが、設備費（1.35%）、配送費（7.13%）の増加となった。

3.総評

加工食品は、売上が減少しているものの、相次ぐメーカー値上げの影響によりケース単価の上昇傾向がみられる。一方酒類については、外食需要の回復やメーカー値上げの影響もあり、ケース単価の上昇がみられた。コロナ禍の巣ごもり需要も落ち着きを見せる中、メーカー各社の値上げと消費者の節約志向の動向を注視しながら、設備投資や物流費の削減を進めて行かなければならない。

直面する労働人口減少や最低賃金の上昇、物流 2024 年問題における配送費上昇と言った課題についても、省人省力化による流通加工費の削減、共同配送や中継輸送、トラック予約受付システム等の活用を進めなければならない。

加工食品	2021年度		2022年度	
	金額	率	金額	率
ケース単価	2,579		2,654	
データ処理費	6.4	0.25%	6.2	0.23%
設備費	22.7	0.88%	23.7	0.89%
流通加工費	48.7	1.89%	50.6	1.91%
配送費	43.2	1.68%	45.8	1.73%
合計	121.0	4.69%	126.3	4.76%

酒類	2021年度		2022年度	
	金額	率	金額	率
ケース単価	3,676		4,028	
データ処理費	7.8	0.21%	7.4	0.18%
設備費	31.5	0.86%	32.8	0.81%
流通加工費	71.0	1.93%	67.3	1.67%
配送費	76.7	2.09%	83.8	2.08%
合計	187.0	5.09%	191.3	4.75%

2023年度在庫回転日数調査結果
（調査期間 2022年1月～2022年12月）

関東支部流通業務委員会

2022年の在庫回転日数調査結果をご報告致します。
関東支部流通業務委員会企業9社、76拠点を対象とし、倉出金額・平均在庫金額等、関連項目について
アンケートを実施致しました。

1 総評

対象拠点数は、前年と変わらず、76拠点となっている。
年間倉出金額は、食品97.2%、酒類100.8%。食品は減少、酒類は前年並み。
年間平均在庫金額は、食品101.6%、酒類102.2%。食品・酒類ともに増加。
年間平均在庫日数は、食品105%、酒類101.5%。食品・酒類ともに増加。
食品は売上減少となったが、在庫については増加している。
酒類は売上は前年並みであったが、在庫については増加している。

2 調査結果集計

★年間平均在庫日数について

年間倉出金額 （単位：億円）

	本年	前年	増減	前年比
食品	3,917	4,028	▲ 111	97.2%
酒類	1,276	1,266	10	100.8%
合計	5,193	5,294	▲ 101	98.1%

年間平均在庫金額 （単位：億円）

	本年	前年	増減	前年比
食品	125.0	123.0	2.0	101.6%
酒類	46.5	45.5	1.0	102.2%
合計	171.5	168.5	3.0	101.8%

年間平均在庫日数 （単位：日）

	本年	前年	増減	前年比
食品	11.7	11.1	0.6	105.0%
酒類	13.3	13.1	0.2	101.5%
合計	12.1	11.6	0.5	103.9%

・食品、酒類合計では倉出金額98.1%、在庫金額101.8%、在庫日数は0.5日増という結果になっている。

★坪当り倉出金額・平均在庫金額

坪当り倉出金額 （単位：千円）

	本年	前年	増減	前年比
食品	4,335	4,379	▲ 44	99.0%
酒類	4,610	4,369	241	105.5%
合計	4,400	4,376	197	100.5%

対象拠点総坪数 （単位：坪）

	本年	前年	増減	前年比
食品	90,358	91,985	▲ 1,627	98.2%
酒類	27,685	28,986	▲ 1,301	95.5%
合計	118,043	120,971	▲ 2,928	97.6%

坪当り平均在庫金額 （単位：千円）

	本年	前年	増減	前年比
食品	138	134	4	103.0%
酒類	168	157	11	107.0%
合計	145	139	15	104.5%

対象拠点総坪数は、食品98.2%、酒類95.5%、合計97.6%となり、全体的に減少となった。
坪当り倉出金額は、食品99%、酒類105.5%、合計100.5%。食品は前年並み。酒類にて増加となった。
坪当り平均在庫金額は、食品103%、酒類107%、合計104.5%となり、全体的に増加となった。

3 まとめ

コロナ禍の巣ごもり需要は落ち着き、経済再開の動きが見られるようになったが、SM(特に食品)を中心に売上が伸び悩み、酒類は前年並みながらも、全体としては落ち込む結果となった。
一方で、ウクライナ危機に起因する原材料価格の高騰、また、人件費・物流費の高騰の影響により、メーカー各社の値上げが相次いで実施された。それにより、商品単価の上昇にともなう坪当り平均在庫金額の増加、また、在庫の抱え込みによる年間平均在庫日数の増加が見られた。
今後、2024年問題を念頭に、メーカーのリードタイム延長や納品車両確保の課題が浮き彫りとなる為、製配販の連携強化が一層必要となる。